

LC-MS による定性分析 予備分析結果

平成 28 年 10 月 3 日

(1) 分析条件

装置	日本 Waters zevo G2-TOF
カラム	ACQUITY UPLC BEH C18 1.7 μ m (2.1 \times 100mm)
移動相	A : 0.1%ギ酸水溶液 B : メタノール グラジエント
流量	0.3mL/min
分析時間	14min
カラム温度	40 $^{\circ}$ C
注入量	1.0 μ L
検出器	PDA および質量分析器 (MS)
MS イオン化条件	ESI Positive
電圧	30V
質量範囲	100-1000 m/z

次頁へつづく

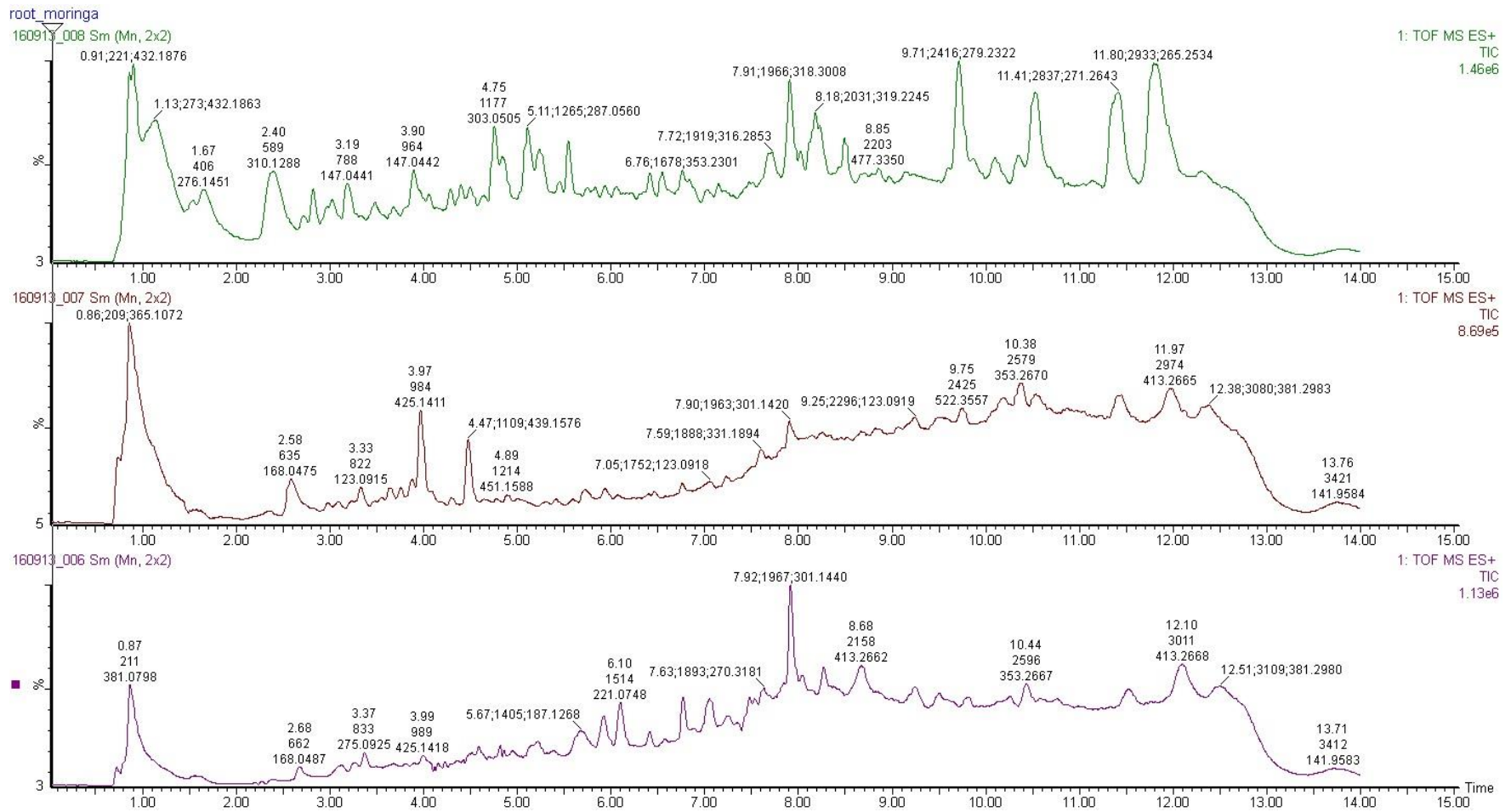


図1 MSクロマトグラム(TIC) (上) モリンガ花 (中) モリンガ根 乾燥 (下) モリンガ根 生

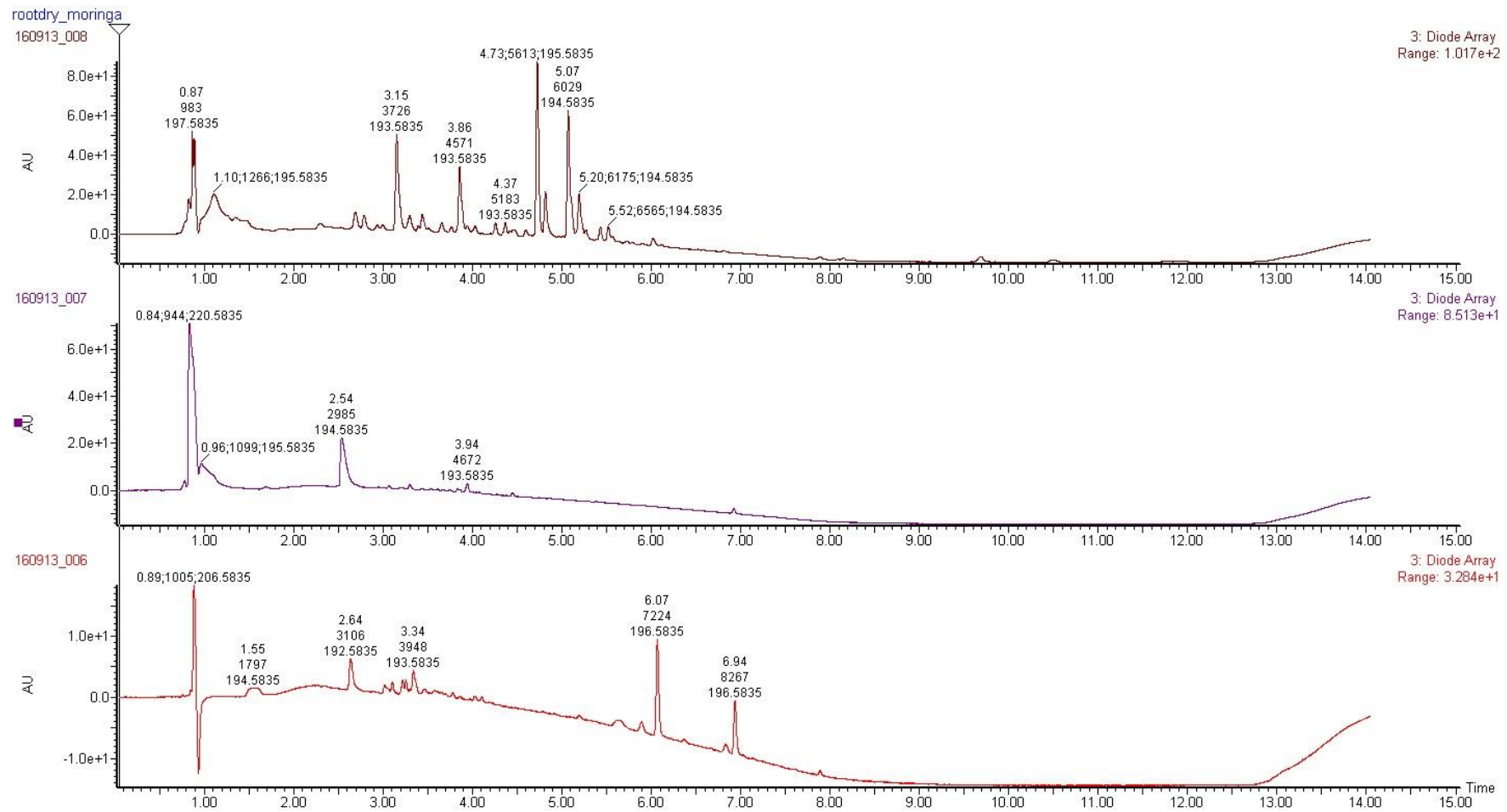


図2 PDA クロマトグラム (上) モリンガ花 (中) モリンガ根 乾燥 (下) モリンガ根 生

コメント（参考程度）

図1のMSクロマトグラムで根の乾燥品と生で共通のピークが見られた。（7.9min 前後、10.4min 前後）

一方で乾燥に顕著に見られるピーク（3.97min、4.47min）も認められている。

根と比較して花の方が検出されたピーク数は多かった。これは花に含まれている色素由来のフラボノイド化合物かと思われる。